



わかちあいプロジェクト

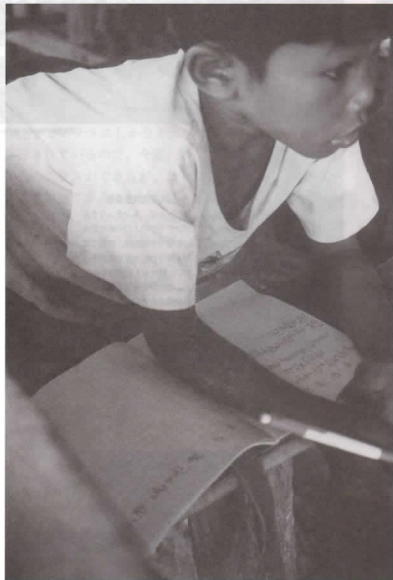
NEWS No.13

1999 May



建設のためレンガを運ぶ 右側福田さん

カンボジアの村の小学生



村の人より幸せ? 福田直子

20年間日本で、お金さえあれば何でも出来る生活を送るうちに、「お金があること=幸せなこと、お金がないこと=不幸なこと」と思い込んでいた自分に気が付いた。

村の人たちが、楽しそうに笑うのが不思議だった。「貧しいのに、何で楽しそうなんだらう……」村の人達は、本当に良く笑っていた。とても親切で明るかった。学校建設の仕事をしている時、疲れてきた頃に、いつも村の人は私たちのテントを指さして休めと言った。私たちが気遣ってくれた。川に行くとか、バレーボールをするとか、たくさん私たちがささってくれた。私たちを見かねると大人の人も話しかけてくれた。言葉が全然分からないからメール語と日本語をお互いに教えあうだけだったけど楽しそうに笑ってくれた。そして私たちが、疲れてないか、眠くないかと心配してくれた。

村の人と一緒にいるうちに、私は日本での自分の生活に疑問を持ちはじめた。教育を受け、金を稼いで、欲しい物は何でも買える。世界で今起こっている出来事とか、明日の天気とか、流行っている物や音楽とか、いろいろな事を知っている。だから何だろう。だから村の人より幸せ? たくさん笑える? 人にもっと優しくできていた?

今まで本当に幸せだ、と思っていた日本の生活には、知らない物がたくさんあって、その知らない物を得るためにお金を追って、笑顔とか優しくさかたをなくしてしまっていたんじゃないかと村の人を見てそう思った。

コーヒー・紅茶プロジェクト

2



知っていますか フェアトレード (公平貿易) ラベル運動

21世紀の市民生活を担う新しい消費者運動です。

トランスフェアのラベル



南側の生産者には公平な取引を
北側の消費者には公平な価格で良い品物を
両方の世界にとって最善のごと
トランスフェアは公平な取引を保証します

フェアトレード(公平貿易)のはじまりは、1967年にオランダの青年たちが、ハイチのスラムから手工芸品を輸入したことからだと言われ、1969年には、最初の「第三世界ショップ」が開かれました。その後、ヨーロッパ各国と北米へと広がり 現在では、数百店舗が開かれています。

しかし、それは限られた市民による消費者運動であって、一般のマーケットとの接点はなく、輸入額も限られたものでした。そこで、フェアな値段でもっと買って欲しいという生産者の声に応えて考えだされたのが、FLO(Fair Trade Labelling Organizations International)フェアトレードラベル運動です。1988年にオランダで(名称、マックスハバラー)1992年に、ドイツを中心に(名称、トランスフェア)ラベル運動がはじまりました。

最初のラベル商品は、コーヒーです。国際基準(インターナショナルスタンダード)を設定することにより、一般のコーヒー業者が、公平貿易品を扱うことができるようになり、スーパーにもラベル商品が並びました。基準を守って輸入されたコーヒーには、公平貿易品であることを表わすラベルを貼ることが許され、消費者はそのことを理解して、あえて少し割高でもラベルコーヒーを選んで購入するのです。ドイツやオランダ、スイスといった現在の運動を引っ張っている国です。すでに、50%以上の人たちが、ラベルの意味を知っているものに普及しています。

コーヒーの成功は、ドイツでは一つのブームとなり次のラベル商品である紅茶が売り出された1995年には90%を超える紅茶業者が、トランスフェアと契約を結びました。

すでに、砂糖、カカオ、蜂蜜、バナナは商品化され現在オレンジジュース、サッカーボールなどが検討中です。日本では1993年に、いくつかのNGOと教会団体が集まってトランスフェアジャパンが設立されました。

当時は、加盟国がトランスフェア5ヶ国、マックスハバラー3ヶ国で計8ヶ国でしたが、現在では、ヨーロッパほぼ全域とアメリカ、カナダを含む17ヶ国まで拡大し、FLOに登録する中南米、アフリカ、アジア、29ヶ国、350生産組合との結びつきが強まっています。また環境と健康を重視し、多くの生産者が有機栽培に取り組んでいます。



写真提供: TransFair Germany



写真提供: TransFair Germany

ノーベル賞受賞者
リゴゴルタ、メンチュウさん
グアテマラの人口の約七割を
占めるマヤ民族は、内戦で家
族を失うなど大変な苦痛を
味わい、様々な犠牲を受けた。
その中で希望を押し公平
の実現のために活躍している
メンチュウさん。小生産者の
ためのトランスフェア運動を
支持している

コーヒーの基準 ●国際市場価格に関わらず最低買入れ価格の保証(1ポンド/454gあたり、126セント/約170円) ●最高60%までの前払い ●長期的売買関係
紅茶の基準 ●1ポンドあたり150円の奨励金 ●別会計で支払われた奨励金を、経営者と労働者の代表の管理委員会と労働者の福祉と教育に使用することを決定。

わかちあいプロジェクトが、あつかうコーヒーと紅茶は、すべてFLOに登録した生産者から購入しています。95年から昨年までの紅茶の購入量10.1トンに対して支払った奨励金は150万円で、学校建設、労働者の住宅改善、村の製粉機購入などに用いられました。